特殊羊歯類及び蘚類の自生地

【所　在　地】鹿児島市東桜島町 2
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 35 年 6 月 20 日

オオヤグルマシダ

東 桜 島町湯之集落から南岳への登山道沿い，標高約 250m の付近に，溶岩のすき間から風が吹き出す風穴がある。ここの風は年間を通して常に 15 ℃前後と温度変化が小さく，湿度も高いため，サクラジマイノデやオオヤグルマシダ（マキヒレシダ）等の特殊なシダ植物が分布し，さらに熱帯性のヘビゴケや北方系のヌマゴケなど珍しいコケ植物も見られる。

サクラジマイノデは桜島で最初に見つかったシダで,葉柄下部の鱗片が黒色をしており，オオヤグルマシダは中国南部や台湾など熱帯から亜熱帯地域に分布するシダで，台湾以北ではここだけに生育するシダである。ヘビゴケは熱帯から亜熱帯に分布するコケで，沖縄や小笠原の硫黄島に多くみられるが，桜島はその北限にあたる。またヌマゴケは本州中部以北の高山・亜高山帯に分布し，九州ではこの地のほか，屋久島の高地で見られる。

このように特殊な植物がここだけに分布しているのは，風穴から吹き出す風の温度が一定であるため，冬季は周囲より気温が高いので熱帯性の植物が生育でき，夏季は気温が低いので北方あるいは高山性の植物の生育を可能にしたものと考えられる。

近年，桜島の火山灰や土石流などによって自生地の環境が悪化し，これらの植物の密度も減少している。サクラジマイノデは確認できず，絶滅したものと思われる。